

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【タイトル】

はいはいトリシュートリシュー

【作者名】

G a l l i c i a

【あらすじ】

氷結界の龍トリシューラ。それは一枚のカード

氷結界の龍トリシューラ。それは某カードゲームにおいて猛威を振るう驚異のカード

氷結界の龍トリシューラ。それはあまりの強さに封印（禁止指定）されていて、つい最近解放されたカード

氷結界の龍トリシューラ。それはとある世界で暴走し、世界を凍りつかせ、時の歩みを止めさせたドラゴン

これは決闘（デュエル）好きな少年と

世界を滅ぼした一枚のカード……いや、一体のドラゴンの物語

少年とドラゴンは異世界でどんな物語を紡ぐのか

この小説は遊戯王の少しでも知識があると楽しくよめます……多分

第一話

「ついにこの時が来た」

俺こと黒崎銀はとても興奮していた

その理由は……

「トリシューラ復活おめでとう！イヤッファー」

そう！長年使っていたカードであり、禁止カードとなってしまうた『氷結界の龍トリシューラ』が制限カードとして復活したのだ！

知らない人のために少し説明しよう

氷結界の龍 トリシューラ

9 水属性 ドラゴン族

ATK2700 DEF2000

チューナー+チューナー以外のモンスター2体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、相手の手札・

フィールド上・墓地のカードをそれぞれ1枚までゲームから除外する事ができる。

遊戯王において三大アドと言われる手札・ボード・墓地ア

ド。それがこのカード一枚によって一枚ずつ削られるのである。

神のカードでさえも、このトリシューラの前では無力だった

この極悪効果の影響もあり、禁止カードとなっていた

遊戯王のある物語でも、暴走し、世界は凍りつかせ、時の歩みを止めたトリシューラ

だがしかし、そんなトリシューラが帰ってきた！

ターミナルで出会ってから、幾度となくピンチを救ってくれたトリシューラ

一度出ると相手を瞬殺してきたトリシューラ

困ったらとりあえずトリシューラ

俺の相棒とも言えるカード

今日はなんと素晴らしい日なんだ

「よし、いっしょじゃないかな。早速決闘しに行くぞ」

カードショップに行くため、デッキと電卓、その他を持って家の扉を開いた

もちろんトリシューラも忘れずに

次の瞬間

目の前に真っ白な空間が広がっていた

「……何処だよここ!?いつもの風景は！背後にあるはずの我が家は!?
そして持ち物がトリシューラしかねえ!……ふう、落ち着け、俺。
とりあえず状況整理だ。」

……普通に夢だろ常識的に考えて」

俺は周りを見渡してみた

目星：80 07クリティカル

「今冒険的な何かか聞こえたような……ん?なんだあれは?」

目の先にはいつの間にか机に紙と穴のあいた1〜4と書かれた箱が置いてあった。

とりあえず紙を手に取り文章を読むことにした

「えーなになに？」「名前を決めます。1の箱からカードを引いてください。」「」

なにもすることがなかったからその指示に従いカードを引いた。

『十六夜遊夜』

「次はなんだ？」「性別と年齢を決めます。2の箱からカードを引いてください。」「」

再びカードを引いた。

『0歳男性』

「なんだか不安になってきたな・・・よし次だ『武器及び能力を3つ決めます。3の箱からカードを引いてください。』能力とか厨二くせえな」

再び（ry

『神器：氷結龍の三叉鎗』『容姿：中の上』『クッキングパパ』

カードを引くと、トリシューラのかーどが氷結龍の三叉鎗とかかれたカードとひとつになった

「俺のトリシューラアアアアア！」

何が起こってんだよ・・・もういいや。これで最後だ。これで夢が覚めるはず『種族に職業を決めます。4の箱からカードを引いてください。』『」

ふた（ry

『人間』

「もうカオス過ぎ」

作業を終えると、カードがすべて俺の中に吸い込まれた

そして新しい文章が現れた

「うおっ！なんなんだよ一体・・・わけわからん

『貴方には転生して頂きます。転生先はランダムとなってい

るのでご注意ください。それでは良き転生者ライフを』
はあ？マジかよ！でも俺は知っている！こつこつのは足下に
穴が開くのがテンプレだと！」
俺は足下を見る。しかし穴は開いていない
次の瞬間、頭上に穴が開き、俺を吸い込んだ
「ちょｗｗｗｗこれは予想外ｗｗｗｗ」
こつこつで俺の意識は飛んだ

「オングヤアア（ダスキンですかコノヤロー！）」
「生まれましたよー！元気な男の子です！」

「よく頑張ったなアキ」
「ありがとうあなた」

目を開けると、目の前には十六夜アキ
と不動遊星がいた
会話からして俺は転生したようだ
しかも蟹とそのヒロインが両親とかｗｗｗｗ
んでもって蟹さん。あんた婿養子なんだね

「あなた、名前は決めてるの？」
「勿論決めてる。俺と咲夜から一文字ずつ取って遊夜だ」
「いい名前ね。これからよろしくね遊夜」

「これから俺はどっになるんだろっ

とにかく今は、これから始まる赤ちゃんプレイをどう乗りきるか考
えよう